

営業所からのお便り (8)

八雲営業所からの紹介： 「土づくりの手始めに炭カルを 施用してみませんか？」

いつも当社の商品をご利用・ご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

平成19～20年の穀物高騰を受け配合飼料の価格が上昇し、自給飼料の大切さ・見直しがテーマとなっています。ここ道南地域におきましては、自給飼料面積が限られた状況であり、良質な粗飼料（牧草・デントコーン）の確保の一環として、土改材？（石灰資材）があります「炭カル」を毎年、利用している農家さんが居られます。

「炭カル」と言っても、下記の通り色々な商品があります。

炭カル：粉状で、廉価ですが、散布には特別な機械が必要です。

粗碎炭カル：炭カルに比べ粒が粗い商品です。

苦土炭カル：粗碎炭カルに苦土成分が入っているものです。

防散炭カル：粒状加工しているので、粗碎炭カルよりも能率よく均一に散布出来ます。

防散苦土炭カル：防散炭カルに苦土成分が入っているものです。

etc.（貝化石、ライムケーキなど）



これらの石灰資材はすべて緩行型であり、八雲営業所では防散苦土炭カルの注文が最近増えてきています。

一方、生石灰や消石灰は即効性のある酸度矯正の石灰資材ですが、水を加えると発熱する生石灰は不向きと考えますし、消石灰も泥濘化しやすく、散布には不向きであります。

利用につきましては、「北海道施肥ガイド2010」を紹介いたしますと、

pH(表層5cm)	～5.5	5.5～6.0	6.0～
炭カル施用量	0～5cm 土層pHを 6.0に改良 するのに必 要な量	40kg/10a /年(注)	不要

(注)現状のpHを維持するための必要量、2～3年分の一括施用も可能。

*pHが低くなると土壤微生物の活性低下、土壤溶液中にアルミニウムイオンの溶出を生じ、活性アルミニウムがリンと結合し不可給体となる。

日本の土壌は、基本的に酸性でありますので、高温多雨の気象条件下において、何もしないと年々、酸性化に向かいます。



酸性化した農地では、

- ・牧草及びデントコーンの健全な成長が阻害され
- ・雑草がはいりやすく、
- ・土質も硬くなりがち等、良い事はありません。

農家さんにおいては、財産である農地を良好な状態で維持するには、費用がかかるのは当然の事であり、目に見えづらい金銭的な負担だとお察し致します。

しかしながら、自給飼料の量と品質を確保するために、農地は次に記した様に、農家さんの要望に応じていると思います。

- ・少しでも単収を上げるための化学肥料による施肥
- ・少しでも早く、効率良く収穫作業するための大型機械・ダンプの導入による踏圧増
- ・時と場合によっては、過剰な糞尿の投入

・その逆に遠方地の圃場には、有機物である糞尿堆肥の永年の未投入。

・その他いろいろ

畑をいじめているなあ～、畑に頑張ってもらっているのに何もしてやれていないなあ～と感じていましたら、この3月の春季に、これらの現状である農地を良い状態に維持していくためにも、炭カルを一例として今回ご紹介申し上げましたが、土づくりに対して、何かご一考頂ければ幸いです。

平成23年は、飼料高騰の再燃が心配されています。輸入穀物がほとんどであります配合飼料もまた高騰する恐れがあります。自給飼料の良質なものが、本年出来上がることをお祈り申し上げます。

(八雲営業所長 森山 淳也)

